平成 26 年度第 9 回生駒市介護保険運営協議会
議事録

開催日時	平成 27 年 1 月 27 日（火） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 20 分
開催場所	生駒市役所 4 階 401・402 会議室
出席者 （委員）	澤井委員、高取委員、萩原委員、辻村委員、井上委員、日野委員 永田委員、林委員、小坂委員、藤尾委員、櫻井委員、小川委員、村上委員
欠席者	中庄谷委員
事務局	福祉部長 坂本、高齢福祉課課長 安達、高齢福祉課課長補佐 堤 高齢福祉課係長 谷、高齢福祉課 水澤、介護保険課課長 奥田 介護保険課課長補佐 島岡、介護保険課課長補佐 田中、介護保険課係長 吉田 介護保険課 殿水、介護保険課係長 原木、介護保険課 齋藤
案件	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議の公開・非公開について (2) パブリックコメントの結果について (3) 平成 27 年度社会保障関係予算について (4) 高齢者保健福祉計画・第 6 期介護保険事業計画（素案）について (5) 地域密着型サービス事業所の指定更新について <ul style="list-style-type: none"> ①介護保険運営協議会への諮問 ②指定更新の審議 (6) その他
資料	<p>平成 26 年度 第 9 回生駒市介護保険運営協議会 会議次第</p> <p>資料 1 平成 27 年度社会保障関係予算のポイント（介護関係抜粋）</p> <p>資料 2 高齢者保健福祉計画・第 6 期介護保険事業計画（素案）</p> <p>資料 3 諮問書（地域密着型サービス事業所の指定更新）</p> <p>資料 4 地域密着型サービスの指定更新事業所の概要</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
	開会
事務局	会議は生駒市介護保険条例により澤井会長にお願いすることになっていきますので、澤井会長よろしくお願ひします。
澤井会長	案件（１）会議の公開・非公開について事務局より説明願ひます。
事務局	案件（１）会議の公開・非公開について
澤井会長	案件（２）パブリックコメントの結果について説明願ひます。
事務局	案件（２）パブリックコメントの結果について説明。
澤井会長	ただいまの説明についてご質問等ありますか。 資料１の２枚目、（介護分野）③地域医療介護総合確保基金による介護施設等の整備、介護人材の確保について、介護人材の確保というのは、どのような支援事業になるのですか。
事務局	国から連絡が来ていないため、私どもも国からの連絡を待っている状況です。27年度予算としては、施設の整備、介護人材の確保について予算を確保したという連絡があったので、何らかの形では国または県で、介護人材確保の事業をされると思いますが、今、その内容について待っている状況です。
澤井会長	これは県の事業なのでしょうか。
事務局	これは国の公費、税金を投入し、都道府県に色々な事業をするために基金を新設すると。その基金は、都道府県で運用して、各市町村や事業所に色々な事業関係で交付等されるという概略の形は示されていますが、具体的に詳細にどのような事業が対象になるか等については、県に照会していますが、詳細が国から来ていないのでなんともいえないということです。したがって、県の方でその事業をするための計画をつくられると思いますが、そこで費用の手当としては、基金を使って各都道府県が事業実施を積極的にするという構造です。

<p>澤井会長</p>	<p>直接には、県の事業の支援ということになるのでしょうか。ただ、介護人材の確保はかなり厳しいわけで、市として今後、どのような手当がありうるかという議論はされていると思います。その辺はいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今までの計画の中でも、介護人材の確保が大きなテーマということでご議論いただきました。パブリックコメントで図った計画書の中にも、人材の確保について努力するという形で明記しているので、それを受けて、市の方としても何らかの事業をしていかなければならないということは考えています。ただ、基本的な枠組は、都道府県が人材確保事業をする構造になっている関係上、市でやった場合は、市の単費になる可能性が高いのですが、もし国の方から基金を使って、市の方で人材確保事業をした場合、補助が一部いただけるということであれば助かりますので、その辺も含めて市内部で検討しています。未確定のため、予算には乗せられませんが、6月議会での補正等で対応することになるのかなということ準備を進めています。</p>
<p>澤井会長</p>	<p>今後の議論として、一つは地方創生戦略がありますね。特に、国の補正予算の方に地方創生交付金が4,700億円積まれていて、県の方から色々あると思いますし、生駒市としても対応していると思いますが、それについては生駒市版総合戦略を来年の3月までにつくることが努力義務になっています。その中で、国の方の予算措置に対応するためには、計画をつくる方向性や内容があって進むわけですが、そういう点で介護人材確保がその中に入るのかどうか。入っていないような感じもするのですが、特に若者定住中心にやっていますから若者向けになっているように思います。その辺は、もしも県の基金にいきますと、メニュー化された事業になると思います。そうすると、こちらから提案しないと動かないわけで、そういう意味では、かなり自由に使える金が来そうな感じがしますが、それに対して手を挙げる準備をぜひ積極的にお願いしたほうがいいのではないかなと思っています。</p>
<p>事務局</p>	<p>その部分についても総合的に、色々な手立ての方で、何らかできるように努力させていただきたいと思います。</p>
<p>澤井会長</p>	<p>では次、議題（3）高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画（素案）について説明願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>（3）高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画（素案）について説明</p>

澤井会長	<p>ただ今の説明について、何か質問はございますか。確定していませんので、質問もしにくいかもしれませんが。</p>
委員	<p>125 ページに家族介護教室、139 ページに家族介護支援事業という文言が載っています。以前から時々出てきていて気になっていたのですが、私はここに生駒市介護者家族の会として出てきています。家族の会は、福祉団体として社会福祉協議会の支援のもと活動を続けていますが、活動内容といいますものは、ここに載っています介護負担の軽減を図ることや、家族介護者同士の交流を図れるような機会、そして悩み、苦労を分かち合い、支え合っていくという活動で、それは 125 ページ、139 ページともに同じ文言が載っています。すでに社会資源として介護者家族の会が活動をしているのに、さらにこういうことを載せられているということは、その辺の関係はどのようにしていくのか教えていただきたいと思います。運営スタッフはボランティアでやっています。これからどのようにして取り組んでいったらいいのか、その辺も考えていきたいと思いますので、お答え願いたいと思います。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。介護者家族支援ということで、家族の会もすでに活動していただいているのも、引き続き何らかの形で、こちらとしても支援ができるかたちを共に考えていって、交流会の場所の確保や色々直接的に、ぜひ、また家族さん同士のピアカウンセリングという形で、ぜひそういった形の交流会にご紹介できるような形とかも引き続きご協力いただきながら、活動の方を共にしていただければいいかなと思って、こちらでは考えています。</p>
委員	<p>共に活動を続けていくというのは、介護者家族の会という団体、グループとどこが共に活動を続けていくのでしょうか。</p>
事務局	<p>委員の質問にお答えさせていただきます。こちらの方に掲載している家族介護教室を平成 24 年から開始しましたが、地域包括支援センター等の地域での活動を通して新しく脳梗塞など起こされた場合に、病院での入院期間も短期間になってきていますし、在宅に戻られてから、お洋服を着替えたりとか、排泄の介助といったところの技術的な支援が欲しいという住民ニーズが挙がっていたということから、介護技術を向上させるための教室として介護者教室が一つ必要かなということで、24 年から実施しています。介護者教室とは別に、任意の団体で、やってくださっている精神的な部分のフォローや介護者の方はなかなか一般の方たちに苦労をお伝えしても、気持ちが共感できないということでは、定期に開催しておられる活動というのをもう少し私たちも周知しかりしていかなければいけないなということで、居宅介護支援事業者協会等で案内をさせてもらったり、地域包括支援センターを通</p>

委員	<p>してちらしを配布したり、そういったところで、もう少し啓発の部分で、市としてバックアップできるようなことがあればなということはあるところでは。</p> <p>啓発に関しては、この間の認知症フォーラムの時にも介護者の会として紹介していただいたのですが、今、部屋の段取りとか、という言葉が出てきたのですが、それは今の言葉の中には出てきていなくて、啓発という言葉だけだったのですが、どちらととらえればよろしいのでしょうか。</p>
事務局	<p>部屋の確保ということになれば、介護者家族の会だけではなくて、例えば、障がいの団体であったり、色々な活動団体があられると思いますので、その辺りの実態も把握した上で、調整を図っていかねばならないとは思っています。必ず確約ということでは、今のところしっかりと発言ができないような状況で、もう少し他の団体との調整も考えてみたいと思います。</p>
委員	<p>では、今まで通り粛々と活動を続けていけばいいということで判断して、運営に携わっているボランティアスタッフにも発破を掛ければいいと判断すればいいのでしょうか。</p>
事務局	<p>また同じことを繰り返してお伝えすることになると思いますが、本当に認知症の方たちや若年認知の問題とか、ほかにもさまざまな介護の問題がありますので、その辺りは整合性を取っていかないとイケませんので、支援をしないと、支援をすとかではなくて、本当に生駒市の色々な障がい、障がい児、認知症の高齢者、普通の脳梗塞などの方、色々な家族さんが大変な思いをしておられる方がいっぱいいらっしゃるので、本当に生駒市として、全体で本当にそういうのをどのように支援していったらいいのかということは検討していきたいと思っています。</p>
委員	<p>では、今まで通り粛々とやらせていただきます。また、どうぞ市としてもご支援の方、現在ある社会資源ですので、19年間歩んできましたので、どうぞ視野に入れて考えていただきたい、助けていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。</p> <p>次の質問があります。生活支援員についておたずねしたいと思います。生活支援員、今度の介護保険の改正に伴って、生活支援員という有償ボランティアを育てていくという話を聞いているんですが、これと無償のボランティアとの間でギャップが出てきて、ボランティア活動に何らかの支障を来さないのかなという思いがあります。あのボランティアは有償で、このボランティアはタダだという、その辺の市民感情がどのように作用するのかなという思いがありますので、その辺どのよう</p>

事務局	<p>にお考えなのかお聞きしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>今、委員がおっしゃっているのが 129 ページ辺りに書いているシルバー人材センターや有償ボランティアなどによる生活支援サービスのことを指しておっしゃっていただいているのかなと思いますが、今回の介護保険の改正の中では、新しい総合事業の中で住民主体によるサービスを構築していきなさいという国の試算もあって、私どもがまず考えているのは、シルバー人材センター、今も軽度生活援助事業をやっていただいています、そういった高齢者の就労ということも視野に入れてシルバー人材センター等で一定の研修をしっかりと受けていただいて、事故が起らないような形でサービス提供できるようなことを考えています。</p>
委員	<p>有償ボランティアというのはどのような方を対象としているのでしょうか。</p>
事務局	<p>有償ボランティアというのは、今後、有償ボランティア等も確保できていったらいいなという国の動向を踏まえて記載しているだけであって、今すぐサービスで有償のボランティア、住民さんに一気にやらしてもらおうということは、27 年度ではなくて、国の動向で伝えると、例えば、ごみ出し等のサービスが介護保険上のサービスでは提供できないということがありますので、生駒は坂道ですし、ごみを収集所までなかなか持っていけないご高齢の方のために、ご近所の方が持っていくというのをワンコインという形で 500 円、100 円という形で、先進地ではやっておられるところがありますので、その辺りが実際、生駒市にとって本当にニーズがあるかということを確認しつつ、将来的にそういうことも高齢化が進展していけば、考えていけないといけないのかなということの有償という形で書かせていただいています。</p>
委員	<p>今現在ではまだそういう方はいらっしゃらないということですね。</p>
事務局	<p>いらっしゃいません。</p>
委員	<p>現実的には、近隣でボランティアでやっていらっしゃいますでしょう。山坂のところでは。それでないと、お年寄りはそので生活ができない状況ですから。だから、それを有償にされるということで、今、委員もおっしゃいましたが、私もボランティアから出ているもので、その辺はどうお考えなのかなと。こちらで有償ボランティアを育てていて、こちらで無償のボランティアをどのように取り扱おうと市がされているのかなというのをいつも疑問に感じるんですよ。だから、無償のボランティアの息を続けさせるのか、絶やすのか、その辺のところ引っかかってくると思</p>

	<p>うんです。</p> <p>だから委員がおっしゃっているのは、その辺かなと思って。ボランティアをやっている人間は、その辺、ものすごく感じるんですが、実際のところ、今の若い人たちはお仕事もあり、何ありで、無償のボランティアをすることが難しい時代になってきていることも事実ですから、その辺、行政として、社協も含めて、ボランティアの全国組織というのは社協あつてのものですから、言っておられることは、社協と市とのマッチングというか、その辺の話し合いというか、その辺をやっぱりきっちりね、見ていたら、もう別々に歩んでおられて、同じような事業をだ一つとやっておられるように思うんです。</p> <p>だから今、ちょっと話は逸れるかも知れませんが、その辺のところの基本的なところをきっちりとりえて話を持っていってもらわなければ、私たちはこの会議に出ている疑問に思う。だから委員の言われることが、ああ、なるほど、あれのことを言っているんじゃないのかなということが見えてくるので、その辺、行政としてどう踏まえてものごとをやらうとされているのか。きっちり基本的なところで言ってもらわないとね、私たち住民として、どのように歩んでいったらいいのか、ボランティア組織を構成しているものにとってはものすごく迷うところです。それを言っておられると思いますが。</p>
委員	<p>私は第三者で、外から見ているから、それが分かるだけの話であつて、行政から何も委託されてやっているわけでもなんでもないんですが、やっぱり今、国が言っているのは、やっぱり住民の支えがないと介護保険がつぶれていくと言っているにもかかわらず、お金が出てしまうと、結局、今まで住民の隣同士の助け合いとか、そういうものの意識を絶やしていくことになっていくということも事実ですから、その辺のやっぱり基本的なところで、きっちり物事を進めていってほしいなど。だから、社協というものが必要、全然別の組織か分かりませんが、やっぱり社協があつての福祉というものがありますから、全国的なもので。だから、やっぱり社協の重要性というものをもっと考えていただかないと、この会議に出ているつも思うんですが、社協の存在というものもしっかりとりえて、物事を市がはかっているともならないと困ると思います。</p>
事務局	<p>今のご指摘、ご意見いただいた部分については、生駒市の方も大きくは基本的に無償のボランティアをできるだけ、それで構築していくという、基本的なスタンス、市はそのような形で進めてきておりましたが、一部、たしかに何らかのお金が市の方から、ごく微量であったとしても出させていただいている部分もないこともありませんので、そのあたりは、たしかに部分的にそういうお金が出る部分と、まったく無償でという形の2つのパターンが事実ございますので、それは市の内部でもそ</p>

	<p>それぞれの担当課等で、福祉部内でも議論は呼んでいるところです。今日だけではなくて、以前にもご指摘を頂戴していて、その辺は検討しているのですが、やはり確実にどうだというのを、まだ今整理できていませんので、今日もご意見をちょうだいいたしましたので、今後、色々それをもう少し市内部でも整理できたらいいのかと思っています。今、すぐにお答えをどちらかですというの、ちょっとできかねますので、ご意見をちょうだいしておくという形でご了承願えればありがたいのですが。</p>
事務局	<p>今、おっしゃった、無償ボランティアの息を絶やそうとしていると、そのようなことはございません。それははっきり申しあげますが、全国的に、例えば、ボランティアをしたらボランティアポイント制で、ポイントがたまったらお金に換えられると、そういった制度をやっておられるところもあるんです、実際、よくご存じだと思いますが。</p>
委員	<p>労働銀行ですね、労働バンク。</p>
事務局	<p>そういう形でやっておられて、成功されているところもありますが、逆にいえば、シルバー人材センターが生活支援サービスをやっているんですね。例えば、何かというと、ゴミを捨てるというか、体力的に落ちてきてしんどいので庭掃除ができないから、ちょっと庭掃除をやってほしいとか、高いところにある電球を歳がいくと替えられないから替えてほしい。ですからそれをやってほしい。そういうのをワンコインサービスでやっておられるんですね。ですが、こういったものも例えば、自治会でボランティアグループをつくってやられた自治会も実際にあるんです。ですが、やはり身近な人に自分の家に入ってもらうのは嫌だということで、あんまり利用がないというふうなことも聞いています。ですから、シルバー人材センターで全然知らない遠方の人に来て、500円で電球を替えてもらう方がいいわという感覚の方もいらっしゃいますし、やはりご近所で助けていただいて、していただけるのがいいという感覚の方もいらっしゃるのも事実ですし、ボランティアポイント制度で、ポイントがたまってお金に換えられるのがいいというお考えの方もいらっしゃいますが、逆に無償ボランティアで私たちはやってきたという、すごい意識をお持ちの方はそれをお金に換えるのはどうなのかということをおっしゃられる方もいるということも先進地では聞いたりもしています。ですから、今、行政も無償ボランティアはいらない、全部有償ボランティアに替えるんだとか、そうじゃない、有償ボランティアじゃなくて、全部無償にするんだとか、そんなことを考えているわけではなくて、やはり色々な選択肢があっただけだと思えるべきだと思うんです。</p> <p>ですから、今、社協と市がバラバラだというふうにおっしゃいましたが、それは</p>

	<p>どのことを指しておっしゃっているのか、ちょっと具体的に言っていたいていないので分かりませんが、たしかにそういった面も今まであったかと思えます。ですが、今年度、去年度ぐらいからですか、社協との連携も色々と行政も考えており、社協の方に色々な事業を委託して、それを受けていただくことによって人材を確保する、財源を確保する。というようなことも今、行政も考えはじめているところですので、色々課題や実際にこんなことがあったんだというお話があれば、また後ほど聞かせていただければと思いますが、社協は地域福祉の核であるということは、私たち福祉分野の職員はみんな同じように思っております。そのボランティアの件に関しても、今、申しあげたように色々な意見があるので、今一概にこれがいいというふうに決めているわけではなく、色々な形態があってもいいのかなと。</p> <p>ですから、市は有償ボランティアをつくって無償ボランティアの人はいらないと考えているわけでは決してありませんし、特に生駒の場合は、無償ボランティアの方々の力で支えられているのが非常に大きなところだと思っておりますので、その辺りは、今後色々と考えていきながらやっていきたいということで、ここに書いてあるのは、こういったことも今後考えていかないといけないのではないかというふうな頭出しだと考えていただければと思います。</p> <p>やり方だと思うんです。有償ボランティアは進め方だと思うんです。たしかにいわゆるワンコインでそういうふうなことをしてもらえれば、お金でできる方がよいという人がいらっしゃることも分かっていますが、行政の進め方というか、言葉はうまく言えませんが、それによって現実、市民活動推進委員会ができて、ボランティアがみなそちらに入ってしまったって、社協が抱えているボランティア自体はもうないんですよ、はっきり言って、生駒市の場合は。だから、そういうようなことも、災害が起こったらどうなるんだろうとか、色々私たちは危惧していますが、その辺は行政と社協とどのようにされているのかなと。私たちには分かりませんから。</p> <p>結局、登録してからそれでいいのか、どういったらいいのか、行政がそういうことをやられる。片一方でこちらへ進まれる。こっちはだんだんそれでもぎ取られていって、ボランティアがいなくなってしまったという現状を今、見えていますから、だから危惧して言っているのもあって、私にもどうやったら、切り捨てるという言葉は悪かったかもしれませんが、どうやって両方を両立させていく方法を行政が出していかれるのかなというのは、今見ている最中なんです。私にも分からないので。言葉と仕組みが違うのではないかなと思っております。</p> <p>この問題は地域福祉計画の議論と重なってくると思うんです、生駒市の場合は。地域福祉計画はつくっていないんですか。</p>
委員	
澤井会長	

事務局	<p>平成 22 年に一度つくっていますが、ただ、今後については地域福祉というのは計画ですから実践だという形で、例えば、災害時の要援護者のプランをつくる、あるいは生活困窮者の関係、これもすべてそういうところに入ると。だから、具体的な計画もつくっていますので、わざわざそれをまとめて計画をつくるということがどうかという議論もありますので、今後については未定です。どちらかというところからという方向でというような話になっていますが、ちょっと分かりません。</p>
澤井会長	<p>改定するかどうかについては、しないというか、27 年で。</p>
事務局	<p>現時点では。</p>
澤井会長	<p>という方向なんだろうけど、今の議論は調整するというか、ボランティアというか、あるいは社協と人材の間をどのように調整するかという議論をする場としての地域福祉計画のアクションプランみたいなところを議論することかなど。調整の場がないというか、こういう場で今、やっているけれども、そういった議論する場がないから、ぽんと問題が出てきてしまうのではないかという感じもするんですね。</p> <p>だからその点は、社協の方は地域福祉行動計画をつくっているのでしょうか。</p>
委員	<p>社協としては、ららポートの方と連携を進めていくということで、災害についても、災害が起こった場合は、ボランティアセンターを主導するのが社協なので、社協としてはそういう時のために、ららポートの方と連携を取っていききたいということで、何かあった時には、そちらの方に連絡を取ってという形をいまはしているんです。実際、委員がおっしゃったように、社協にボランティアを今、抱えていませんので、そちらの方と連携を取る。だからそれということは、社協と市とが連携を取るという形になるんじゃないかなとは思っています。有償ボランティア、無償ボランティアというのは、もう 30 年ほど前からずっと出てきている問題であって、もうずっと前から福祉は無償ボランティア、社会教育団体は有償ボランティアというような言い方を 30 年ぐらい前からずっとして、ずっとそのまま進んでいっている状態で、あまり進歩がないというふうに聞きながら思っていたんです。だから何をもちて有償とするかなんですが、人によって受け方が違って、交通費をもらっても有償だという人は有償なんです。でも、福祉であっても交通費ぐらいは手弁当で行っても交通費ぐらいはもらってもいいんじゃないかというご意見の方もたくさんあるし、福祉センターで勤務している時は、やはり来ていただいている交通費は払おうと。自弁で 1 日来られるのですが、それについては無償という形で考えていたのですが、もうこれはずっと前から無償ボランティア、有償ボランティアと</p>

委員	<p>いので、ずっと委員がボランティアされた 30 年以上前からずっと出てきていることなので、なかなか今、この場で解決ということも無理ですし、今後、考えていかないといけないかなとは思っています。</p> <p>私もボランティアは 35 年ぐらい色々なことをして続けてきたのですが、ボランティアの基本は有償でも無償でもなくて、何もないもので、自分がやりがいを感じることで生き生きできることがボランティアの基本かと考えていますので、このように有償だと謳ったから人が集まるものでもなくて、無料だから人が集まらないということで泣くようなことでもなくて、生駒住民は意識層がとても深く、何かしたい、何かやりたいという人の集まりです。生駒市は色々な課ごとに、ボランティアの育成の養成講座をありとあらゆる縦割り行政の中でやっていますが、それぞれが行政が思惑でも人は集まらないし、それぞれがこうやりたいという思いを盛って養成講座に出向いてこられても、なかなか今、行政の言う通りには動かないのが生駒市の住民レベルですので、ここには一応謳っていますが、私たちそれぞれの団体が行政に言われたからするとかいう部分も必要ですが、自分たちがどうやったら生駒市が楽しくなるか、いい形になるかという思いを持って、今の形を綿々と進めていけばよくなるのではないかと。</p> <p>活字にしてしまえば、何かさみしいものがあって、それぞれが何にやりがいを持っているかというのは、昔、30 年前と違って、今はものすごく濃いです。こんなことがやりたい。たとえ 3 人でもこれをやりたいという住民がいっぱい出て、逆にまとめられないのが、ちょっと今、悩みで、いくらお金をかけて養成講座をしていただいても、なかなか人は動かない。それぐらい知識を持った住民が多いので、それぞれのところで、引き出しをいっぱい行政がつくっていただいて、それで指導もしていただきながら、自分たち住民がどんなことが楽しいかをそれぞれがやっていけば、私はいいかなと。文章にしてしまったら、何かさみしいものがありますが、そんなに深く考えるものではないと考えています。</p>
委員	<p>ちょっと方向が変わってきたように思うんです。</p>
委員	<p>ボランティアの基本というのはそんなものですよ。</p>
委員	<p>私はボランティアの基本の「基」を尋ねたのではなく、介護保険制度が変わることによって、要支援 1、要支援 2 の人たちの今までヘルパーさんたちがやっておられた買い物やごみ出しを有償ボランティアとして補っていくという面を打ち出しておられるので、そういうふうになると、そこであのボランティアはお金をもらえるのだと、あっちのボランティアはただなんだということになった時に、ギ</p>

	<p>ヤップで住民はどういうふう動くかな。その辺まで考えておられるのかなという思いがあって質問したのです。</p>
委員	<p>心配ないと思う。お金いらないという人が多い。</p>
委員	<p>いや、それは分かりません。われわれもボランティアやっていますが、後ろを振り向いたら若い人はボランティア、どなたも付いてきてくださっていないというのが現状です。それを憂いていて、ずっと介護保険制度が変わって住民にとおっしゃっているけれども、どこまで住民がついてきてくれるのかなという思いがあって、以前にもここで質問したことがあるんです。それと、やはり最初に質問したことは、今ある社会資源をもっと活用していただいて、幅のあるものにしていただけたらいいのに、同じようなことをさっき委員が言われたことを並行しながらやっていく、それも財源の無駄かなという思いがあり、自分の属している団体のことをちょっとおたずねしただけであって、ちょっとボランティアは有償とか無償の基本的な考えということではなかったんです。</p> <p>私は介護保険がこういうふうになっていく中で、こういう有償ボランティアが携わっていかれるということに対して危惧していますので、その辺は市としてどのようにお考えを持っておられるのか、そこをお聞きしたかっただけです。でも、色々なところで活躍なさっている方は、色々な思いでやっておられるということ、やっぱり市もこの際、知っていただけたらなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
澤井会長	<p>実は、それで収まるかという話があります。実は、生活困窮者自立支援法の話が出ましたよね。生活困窮者自立支援ということで、今度の4月から相談センターが動き出しますよね。生駒市はどこで受けたのか知りませんが。</p>
委員	<p>社協です。</p>
澤井会長	<p>社協で受けた。大変ですね。そこに「中間的就労」という言葉が出てきますね。それはそれこそ、今までだったら有償ボランティアも含めて、中間的就労の範囲に入ってきますね。僕が有償ボランティアを見てすぐに思うのは、例えば、富山型デイサービスがあるじゃないですか。あそこに6人ぐらい養護学校を卒業した子どもたちが、もう今、中年ぐらいになるのかな。彼らは有償ボランティアなんですね。障害者が働くといってもフルタイムでは働きにくいので、そうするとやっぱり短時間とか、あるいはむしろそういった就労しながら同時にという形態になっていたと思うんです。あの子たちは元気がいいので。だからああいうのは有償ボランティア</p>

	<p>で、障がい者の就労形態としてはなるほどなと思ったのですが、そういった意味では、有償ボランティアは具体的に色々考えた方がいいと思うので、ただ、その問題は、要するに働き方にも色々タイプが出てきたので、これが延々と続くんじゃないかなと。特に、中間的就労という言葉が結構流行りつつあって、3時間、4時間働きながらというのも、やっぱり生活保護から脱却するために必要ではないかとか、そういう議論が出てきていますので、この議論は引き続き出てくるんですが、それをどこで受けていくようにしていくのかなというのがちょっと。市としてね。生活困窮者自立支援法は生活保護で受けているのかな。</p>
事務局	<p>そうです。保護課です。</p>
澤井会長	<p>本来は違いますよね。生活保護も含めてという形なので。</p>
事務局	<p>それは庁内体制でつくりますので、生活困窮者をどのように見つけるかといいますと、例えば、税金を滞納されている、保険料を滞納されているといった場合もありますし、色々な部分があるので、庁内の体制をつくらないといけないということになっていまして、それを近々第1回の会議をしようということになっています。ですから教育分野とか福祉分野、それから税とか保険の関係、関連する課が集まって、今後どのような形でそういった方々を見つけたら、そういう相談のところにつないでいくかというふうなことを考えていきたいと思っています。ですから、事務局は保護課が受けていますが、現実には、保護課の業務というわけではありません。社協に託していますが、すべてが社協ではありませんので、住宅の方の関連は委託することができませんので、それは保護の方で持っていますし、庁内の体制を整備しながら連携を図って、できるだけ相談の方に、生活に困っておられる方を誘導するというのを今、考えています。</p>
澤井会長	<p>いずれにしても法制度が変わっていきますので、その辺は議論しながらお互いを知りつつ進めていくしかないと思います。ほかにありますか。なければ素案として、空白の分を含めてですが、素案としてお認めいただければと思います。よろしいでしょうか。</p>
一同	<p>異議なし</p>
澤井会長	<p>ありがとうございました。次回の2月18日に介護保険料などの試案も含めて、ご提示いただくということだそうです。よろしくお願ひします。</p> <p>それでは最後になりますが、(5) 地域密着サービス事業所の指定更新について</p>

	説明願います。
事務局	<p>案件（５）地域密着サービス事業所の指定更新について</p> <p>①介護保険運営協議会への諮問</p> <p>②指定更新の審議</p>
委員	今の実地検分は何年に行かれますか。ごめんなさい。聞き漏らしたのですが。
事務局	平成24年6月です。
委員	ということは2年半前。それ以降は行っておられないのですか。
事務局	この事業所については、その時に確認していますので、今回の更新にあたってということはありません。
委員	そのぐらいのレベルで実地検分はやっておられるということでいいのでしょうか。
事務局	更新の前には、前回、出させていただいたデイセンター憩の家、たわらぐちデイサービス花はなの時には、更新の時、それ以前にかなりの期間、行っておりませんでしたので、この更新の時に際して行った経緯があります。今回については、まだ2年前に行ったということですので、書面審査をさせていただいたような状況になっています。
委員	お忙しいのはよく分かりますが、たまには、ときどき実地検分していただいて、再発見していただくことも大事なことでないかと住民として思っていますので、またその辺もご検討よろしくお願ひしたいと思ひます。
澤井会長	その気持ちはよく分かります。
委員	いつも思うのですが、施設とかそういうものに対しては、目に見える形で出ているのですが、従業員の資質というのでしょうか。そういうことについて、何か検討されたりするようなことはありますか。ちょっと私、親族の中で耳にしたことですが、ちょっと従業員が荒っぽいやり方をしているというようなことを、生駒市ではありませんが、ほかで耳にしたんですが、そういう施設うんぬんはこれで見たらきちんと分かりますが、従業員が入所者に対しての取り扱い方というのでしょうか、

事務局	<p>その部分に対しては行政として何かはたらきかけをされているのかなということが気になったのでおうかがいしたのですが。</p> <p>各施設、事業所には苦情の受け付けというのがあるのですが、まず実地調査に行かせていただいた時には、どういう内容の苦情が届いているのかというところを見せていただいています。もちろん、苦情というのは、施設、市、国保連合会という3つのところに利用者の方は出していただけるようなシステムになっていますので、施設には直接は行ってないけれども、市に直接来ているというような案件もあれば、それを重点的にお話聞かせていただいたり、それは実地調査とからめる場合もありますし、からめずに直接こういうお話があったんですがということで聞かせていただく場合もあります。そこで利用者さんからのお話と、施設にもそれなりの言い分とあっていいでしょうか。施設側からのお話も聞かせていただいて、その間に入って、お互いの思いの行き違いであったりとかの話をごちからからこういう話で聞いていますけれどもということで、ご利用者さまがお名前を明かしていただいて、ご返答ができるような場合であれば、施設側から聞いた話をまた伝えてということもしている。それは日常業務として、しているところではあります。</p>
委員	<p>行政として、従業員の資質ということに対しても気を配っていただくことも重要ではないかと。よくニュースなどで、虐待を受けたということも耳にしますので、施設だけではなく、従業員の資質ということも目を光らせていただけたらいいのではないかと考えています。以上です。</p>
委員	<p>私は人権擁護委員をしていて、県レベルで色々な福祉関係のところに行かせていただいています。人権相談という大げさなものではなくて、そこに入所されている方に世間話を聞く中で、ちょっとこれは問題があるんじゃないかなというようなことをメモさせていただいて報告をすとか、施設長に連絡をすとかいうような活動を長年しています。この前もある委員さんの事業所の方へ行かせていただいて、皆さんの行動範囲や、どういうところでどのようなことをされているかということもを見せていただいたりしました。これから生駒市の方でもそういう施設を回って、そこへ相談に来ていただくかどうかは別としても、そういう人たちがそこに座っているというような、そういうこともあって取り次ぎもできたらなということですので、生駒市の方でもそういう場所をまたご案内していただきましたら、またよろしくお願ひしたいところです。</p>
委員	<p>介護従業員の資質についての質問ですが、介護従業員に対してクレームを出すと、入居されている方に対して、あとでお返しがくるというのがよくあるそうです。</p>

事務局	<p>ですから、なかなか声には出ないという実情があることを知っていただきたいと思います。そのためにやはり何年に一回の実地検分ではなく、時々行って、市として認可したからには目を光らせているよということをやっぱりニオイ付けしていただけたらいいのかなと思いますので、よろしくお願いします。お願いすることばかりですが、よろしくお願いします。</p> <p>実施指導については、県と一緒にやっております、県の方もかなりたくさんの方の事業所を抱えている中で、なかなか定期的にとということも難しいところもありますので、期間が空いてしまうこともあります、市の方でも運営推進会議というのが地域密着型サービスの事業所には開くよということになっています。なかなか忙しくてすべての会議に出席することは、今のところできませんが、なるべく市の方も事業所さんの方に行かせていただいて、運営推進会議の方で事業所さんだったり、家族さんだったり、自治会の方だったり、地域包括支援センターの方だったり、集まってくれれば会議が定期的にございますので、そちらの方にできるだけ参加させてもらって、行けばある程度の状況も分かりますので、その辺でなるべく参加するようにさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>大変なことはよく分かるのですが。</p>
委員	<p>堅いことを言いますが、入居なり利用される時には、各事業所さんと契約をまずされるんですね。契約書の中におっしゃっておられるようなことがたくさん書いてあります。ですから、逆にいえば、契約違反の話になります。ですから、それは契約違反の話ということは、つまりはそういうことです。</p> <p>それからもう一つは、菜の花さんは、分かりませんが、一般的にこの書類を見てくださいと、菜の花さんの悪いことを全然知らないで言っていますよ。これを見てくださいと、この3ページですが、夜間時間帯の職員配置は1人なんです。この夜間時間帯が何時から何時かというのは、この資料だけでは分かりませんが、入居者は27戸あるので、多分27だと。満床であればですね。定員割れしていたら、28人というのはあり得ない話ですから、満床であれば27人。夜間帯に1人で27人に対応するという話なんですね。これが適切かどうか。</p>
委員	<p>夜間帯は9人に1人です。</p>
委員	<p>下に1と書いてあるのは基準です。</p>
委員	<p>9人に1人で、これがその時間帯で回れるかどうか。というのは、これはじゃあ、</p>

	<p>人数を増やしたらいい話になるかもしれませんが、多分そうしたら事業所はつぶれます。ですから、その辺のせめぎ合いをどの辺で取るのかという話だと思います。ですから、それはこのグループホームさんだけではなく、われわれの特養でもそうですし、ショートステイの事業所でもそうですし、デイサービスでもそうです。</p> <p>それからもう一つは、先ほどの人材不足と大きな関係が出てくるんですね。今、多分、どこの事業所さんも長と付いている方は非常に弱い立場です。きつく指導すれば逃避するという現状があります。だから、上手くあめをぶら下げながら、うまくその辺を誘導して行って、やっているのが現状だと思います。虐待や放置は許されることではありませんが、多分、色々な形でご苦労されているのだと思っています。</p>
澤井会長	<p>市の方にお願いとすれば、運営推進会議に出ていらっしゃるそうですが、何らかの形で報告を出しておいた方がいいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>法律上、おおむね地域密着型サービスについては、運営推進会議を事業所は開かなければならないとされています。その開催のおおむねの目安として、おおむね2カ月に1回の開催という形になっています。生駒市内に地域密着型事業所が増えていきますので、その関係で地域包括支援センターと市のいずれか、どちらかが出席することが法律上規定されていますので、市がいけない時は地域包括支援センターにお願いとするという形で対応しています。おおむね2カ月に1度という形で、どの事業所も運営推進会議を開いていただいている、その運営推進会議をなぜ開くのかというのが、やはり色々な問題が閉鎖空間の中で目につかないこと、先ほどおっしゃっていただいたような色々な問題があるかもしれないよねと。そういう部分を色々な利用者の家族、地元の自治会の関係者、地域包括支援センター、それから市の職員というようなものが集まって、その会議の席上で忌憚ない意見をお互いに出す。あるいは問題はこんなことではないかとおっしゃっていただいてもいいと。それで、透明性を高めて、閉鎖空間の問題点を解消しようと、制度上つくられているものです。</p> <p>一応、それは市の方で開催の連絡が来て、参加させていただいてということで、今のところはそれを外部にまで公表する制度はありませんので、それは別個に施設の経営上で適正な外部評価を受ける。それを公表するという制度はありますが、運営推進会議の結果を市の方が公表するということには、今のところ制度上なっていませんので、市の方で参加して、問題点があった場合は、問題を把握してまた対応ということにはなるんですが、通常、今までそれに参加している中では、ご家族や自治会関係や民生委員さんなどが出席された場合で問題点があるよねということとは、その中でお聞きしたことってというのは、今のところなかったと思います。</p>

	今のところ、それを広報等で運営推進会議の結果を公表するという事は、今のところ市の方も想定しておりませんので、内部で色々問題があった時の対応の参考にするという形で今のところ動いております。
澤井会長	記録を残して点検できるようにした方がいいですね。
事務局	それはまた今後検討させていただきたいと思います。
澤井会長	いらざる疑心暗鬼も生まなくてすむでしょうし。それでは、よろしいでしょうか。ということで、では菜の花さんについては更新を可とする答申にさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
一同	異議なし
澤井会長	ということで、答申の方を出させていただきます。どうもありがとうございました。では、その他について説明願います。
事務局	(6) その他について説明
澤井会長	では次回は2月18日に答申ということになります。よろしいでしょうか。では。第9回審議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。 (終了)